

心と身体のリハビリを行う

作業療法士

作業療法士の仕事内容

理学療法士は座る、立つなどの基本動作ができるよう身体の基本的な機能回復をサポートするのに対して、作業療法士は身体や心に障がいをもった方に、日常生活および社会の中で可能な限り楽に生活が送れるよう指導・訓練を行います。

食事、トイレ、着替え、入浴、家事、買い物、学習、仕事など身の回りのことから応用的動作能力や社会的適応能力の回復に向けた援助を行います。また、対象者の興味を活かし、創作活動、余暇活動の援助を行い、心のケアや治療につなげます。

作業療法士は利用者と一緒に、ご本人のやりたいことを見つけ、それができるようにするための手段を考えます。手段の提供以外にも、利用者が行動を起こせるよう、こころの背中を押すことも作業療法士の大切な仕事です。

作業療法士は利用者と一緒に、
ご本人のやりたいことを見つけ、
それができるようにするための手段を考えます。
手段の提供以外にも、利用者が行動を起こせるよう、
こころの背中を押すことも
作業療法士の大切な仕事です。



公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長

志井田 太一さん

住まいであれば、どのようにすれば使いやすい住まいになるか、住宅の改修や福祉用具をどう使うかな

一般社団法人日本作業療法士協会は、今年設立50周年を迎え、会員数は全国で約5万人、福岡県で約3千人であり、全国で最も多くの会員が所属しています。今回、公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長である志井田太一さんに作業療法士についてお話を伺いました。

ど、本人・家族の生活行為のやり方や精神面のサポートを行います。生活行為の支援では、掃除や洗濯、ゴミ出しなどが難しい方がいらつしやいます。そこをどうサポートしていくか、例えばゴミを持って歩くのが難しければ、台車にゴミを乗せる運び方を伝えるなど、様々な提案をして、実際にうまくいく方法を探します。

作業療法士は、医学的知識を基盤に、社会的観点、生活者の観点を絡めて、解決方法を見つけます。私たち達が取組んでいるリハビリテーションはチームで動いており、医療の現場では、医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士などと、介護の現場ではケアマネジャーや介護福祉士、ホームヘルパーらと一緒に連携していくこととなります。

自助や互助を伝える

地域包括ケアシステムは、自助や互助が重要となります。例えば町内で、近隣住民による声かけ・見守りなど、自分たちの町のことには自分たちで守ろうとする気持ちにどれ

だけなれるかが大切です。制度や建物がいくら充実しても、地域住民に自助や互助の気持ちが生まれな限りはうまくいかないと考えます。今後はこのようなことを伝えていくことも、必要になると思います。

利用者の相談に寄り添って

作業療法士に対しては「ご自身やご家族が、どんなことにお困りかを伝えていただきたい」と思います。例えば、買い物にいきたくいとか、調理や掃除など家事ができるようになりたいなどです。作業療法士はそのような利用者からの相談に寄り添い、信頼関係を深め、一緒に考えていきたいと思えます。

※1 ケアマネジャー(ケアマネ)
介護保険等の様々なサービスをコーディネートし、介護を必要とする人やその家族を支える役割を担う。

※2 地域包括ケアシステム
介護が必要な高齢者が、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に受けられる支援体制。

公益社団法人 福岡県作業療法協会
〒802-0044
福岡県北九州市小倉北区熊本1丁目9-1
ONE OFF第2ビル101号
TEL 093-952-7587